

数字で見る経済

22 東住吉区



大阪産業創造館までの時間距離

東住吉区役所からの所要時間

実際に計測。地下鉄利用。
電車の待ち時間を含む。

▶ 約45分

イノっちこと井上智之(いのうえ さとし)

1970年生まれA型。某シンクタンクで関西の産業振興に関する調査をしていたが、縁あって大阪都市経済調査会へ。俯瞰的な分析を徹底するクールさと「いつかは独立したい」というアツい野心を併せ持つが、泥酔すると昭和歌謡で突然踊り出す奇怪な一面も。

水産物関連産業の集積あり！？ ～鮮魚専門店数・販売額が最も多い区～

東住吉区の北部(今林1丁目)には、青果、水産物、加工食料品を取り扱う大阪市中央卸売市場東部市場があります。このため、区内では、主に水産物を取り扱う製造・卸売・小売業の事業所が多く立地しています。同区の水産食料品製造業の事業所数の市内シェアは13.0%(東住吉区14事業所 VS 全市108事業所、2004年。以下同様)、農畜産物・水産物卸売業では9.9%(171 VS 1,729)、小売の鮮魚専門店では7.3%(32 VS 441)と、いずれも全産業平均の市内シェア3.5%(7,055 VS 203,220)を大きく上回っており、同区に集積していることが分かります※。なかでも鮮魚専門店の事業所数は24区中最多で、その販売額(18億3,800万円)も最高を誇っています(表)。

鮮魚専門店について、2002年から2004年にかけての推移(表)を見ると、市全体では事業所数、販売額がいずれも減少(-13.2%、-21.7%)しているのに対して、東住吉区ではともに増加(+3.2%、+12.5%)しており、同区の鮮魚専門店是好調に推移していることが分かります。このように鮮魚専門店が東住吉区に集積している理由としては、卸売市場と近接しているため、新鮮な魚を消費者に提供できること、物流コストが安いこと、並びに若い

世代よりも魚を好む傾向がある高齢者が区内に多く居住していること(65歳以上 3万1000人、24区中6位※)などが挙げられます。

また、区内に居住する高齢者は2000年以降、4000人以上増加しており、今後5年間に65歳以上となる世代も1万人居住していますので※、高齢者に配慮した「旬やおすすめ商品のアドバイス」「配達」「ご用聞き」など、スーパーでは対応することが難しいきめ細かなサービスを提供することで、区民に親しまれる専門店として活躍し続けることが期待されます。

【表】鮮魚専門店数 トップ5区

区名	店舗数		年間販売額(百万円)	
	2004年	02-04年 変化率(%)	2004年	02-04年 変化率(%)
1. 東住吉区	32	3.2	1,838	12.5
2. 阿倍野区	32	6.7	780	-10.9
3. 生野区	32	-8.6	764	-25.8
4. 中央区	29	-6.5	1,208	-60.3
5. 西成区	29	-6.5	1,130	-10.7
大阪市全体	441	-13.2	19,617	-21.7

資料:大阪市計画調整局「商業統計調査」より作成